医療法人 水の木会 下関病院 広報誌　Ｎｏ．４７

2019 年 10 月 16 日 発行

ステップ・アップ

山口県下関市富任町 6 丁目 18 番 18 号
ＴＥＬ：083-258-0338
ＦＡＸ：083-259-8876
ホームページ：http://www.mizunoki.jp

目 次

■上映会　～ぼけますから、よろしくお願いします。～
■家族会 100 回記念
■学術講演会
■水の木知恵袋
■新入職員紹介
■行事報告
■スタッフのわ
■編集後記

上映会　～ぼけますから、よろしくお願いします。～

去る7月20日、全国ロングラン中の映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」（以下、「ぼけますから」）の上映会と信友直子監督による講演会が開催されました。当日は市内外から専門職も含めて約200名の方々が足を運ばれました。

映画「ぼけますから」は1,200日に及ぶ信友家の映像記録といえますが、特殊な家庭で起こっている特殊な出来事ではないでしょう。この映画を通じて、自分自身の生活と重ね合わされた人もおられたでしょう。一方で、認知症の人との生活に衝撃を受けた人もおられたかもしれません。認知症について、老いについて、人生について、家族について、皆さんそれぞれ思いを巡らされたことと思います。後日、涙を流されながら上映会開催に感謝される地域の方もおられ、各方面から多くの反響をいただきました。

上映会終了後には信友直子監督より御講演を賜りました。認知症を抱えたお母様を通じて認知症の人は何もわからない人ではないと知ったこと、御両親の絆を新たに感じることができたこと、献身的なお父様の姿を見て「案外いい男だな」と再発見したこと、他にも多くのメッセージをいただきましたが、“娘”という家族としての視点と、カメラ越しの“ディレクター”としての客観的・洞察的な視点の両立によって、多くの発見が監督の中に立ち現れてきたのではないかと想像します。もちろん、この両立は並大抵のことではないでしょう。講演の最後に「介護は、親が命がけでする最後の子育てだ」という言葉をいただきました。老いて認知症を抱え、“老醜を晒す”という言葉はありますが、生きていく（生を全うする）ということはこういうことだ、ということを身をもって教えてくれている、そのように思う、とのことでした。

専門職であっても誰もが認知症の当事者です。知識を得る場や経験や思いを分かち合う共感の場も大切ですが、今回の上映会のような感性を磨く場も私たち当事者にとって必要なものかもしれません。

認知症専門医　中山 寛人

基本理念　全人的な医療の実践

基本方針

1.癒しの芸術（生物学的ー心理学的ー社会学的アプローチ）を大切にします。
2.地域社会に開かれた精神医療と福祉サービスを提供します。
3.患者さんの社会復帰と社会参加をご家族とともに援助します。
4.職員の資質向上に取り組み、患者さん本位の医療を常時提供します。

家族会100回記念

下関病院・下関病院附属地域診療クリニック患者家族会は、同じ悩みを持つご家族の集まりとして 2011 年 4 月に発足し、このたび 2019 年 7 月に開催 100 回目を迎えました。

家族会はご家族同士が知り合い、繋がり、悩みや不安を話し合うことで、少しずつ心の負担を軽減することを目的としています。
また、学習会を通して病気の正しい知識やご本人への適切な接し方、社会復帰のために何が必要か等をご家族と一緒に考えています。

今回、100 回記念の祝いとして当法人 理事長より記念品が進呈されました。

（作業療法士　近藤 圭佑）

学術講演会

八千代病院　認知症疾患医療センター センター長　川畑信也先生をお招きし、
「改正道路交通法の現状と認知症薬物療法の実際」というテーマで講演会が開催されました。

道路交通法改正の仕組みや現状、医師の視点からみる認知症診断のあり方などを中心に講義をしていただきました。高齢者の運転事故は社会的な問題となっています。

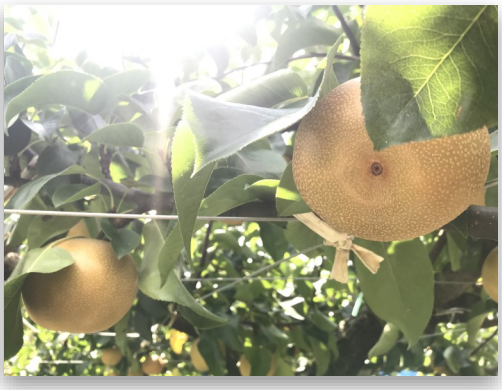
現在、高齢者ドライバーのうち認知症と診断され免許取り消しとなっている方はわずかであり、高齢者の認知症診断や免許返納は課題とされています。
さらに、高齢者の運転事故を未然に防ぐ施策が進められる一方で、運転免許の返納は、高齢者にとって生活に支障を及ぼすだけでなく、楽しみや生きがいの喪失につながる可能性もあるといわれています。社会的な仕組みのみでなく心理的な配慮も必要となる複雑な問題のように感じました。

高齢に伴って失っていくものを埋めていけるような支援は、地域や医療機関、私たち自身の課題となっています。

（作業療法士　土谷 亜維）

みずの木ちえぶくろ

暑さも和らぎ、すっかり秋らしくなってきました。
秋と言えば…読書の秋、芸術の秋、そしてなんと言っても「食欲の秋」ですね！
そこで今回は、秋が旬の食べ物のひとつ「梨」について、ご紹介します。
梨は食べて分かるように、成分の 90%が水分ですが、
高血圧やむくみを予防するカリウムや、腸内環境を整え、
デトックス効果が期待される食物繊維なども豊富に含まれています。
先日、私が梨狩りに行ったときに、
梨園の方から美味しい梨の見分け方を教えてもらいました。
それは、「梨のおしりの部分を光に当てたとき、
うっすら緑色になっているもの」が美味しいとのことです。
（実際に、試してみましたが、なんとなく見え…ます。）
皆さんも梨を選ぶときに参考にされてみてはいかがでしょうか。



栄養科　藤井 美沙

新入職員の紹介

松村　雅直（事務／事務次長）
抱　　負：収益力の向上、財務体質の強化、働きやすい職場環境づくり等に取り組みます。

中野　譲治（急性期病棟／看護師）
抱　　負：一から精神科の治療を学びなおし、地域における当院の役割を理解しその中で自分にどんなことができるか考え働いていきたいです。

村田　秀樹（男子リハビリ病棟／看護師）
抱　　負：患者さんに寄り添う看護を実施できるよう知識・技術の向上に努めたいです。

吉村　一郎（男子リハビリ病棟／看護師）
抱　　負：一生懸命頑張ります。宜しくお願いします。

石本　真理（女子リハビリ病棟／看護師）
抱　　負：精神科看護師としての専門性を身につけ、患者様、ご家族様に寄り添った看護を行っていきます。

川村　優加利（女子リハビリ病棟／看護補助者）
抱　　負：人と接する事が好きなので患者さんとたくさん関わり少しでも信頼関係を築きたいです。

本田　隆一（認知症治療病棟／准看護師）
抱　　負：患者様に信頼される看護師になれる様看護を行っていきます。

森本　美幸（地域診療クリニック／看護師）
抱　　負：私は、今まで内科で働いていました。精神科は初めてで、わからないことばかりですが、外来スタッフ先輩に親切に指導して頂いています。早く仕事を覚え頑張っていきたいと思います。

安川　英慈（電算室／電算職員）
抱　　負：職員の方をシステム的に支えられるように努力します。

岡田　真里子（豊松苑／支援相談員）
抱　　負：相談員の仕事は、初めてで慣れない事も多いですが、頑張ります。

浅利　豊子（豊松苑／介護職）
抱　　負：日々、向上心を抱きながら、入居者さんと楽しく一日を過ごしたいです。

山本　美香（富任荘／介護支援専門員 兼 准看護師）
抱　　負：入居者様やご家族様との関わりを大切にして心に寄り添う看護を目指したいと思います。

花村　かおり（富任荘／介護職）
抱　　負：入居者の方々に快適に過ごして頂けるように努力していきます。

岩政　和美（富任荘／介護職）
抱　　負：早く仕事を覚えて、ご利用者様との信頼関係を築き丁寧なケアを行っていきたいと思います。

行事報告

■夏祭り

8 月 30 日、下関病院夏祭りが開催されました。悪天候が予測されましたが当日は晴天となり、多くの方にご来場頂きました。今回から一新したバザーメニューも大変ご好評頂き、例年以上の売れ行きを見せました。
フィナーレには、馬関連平家踊り保存会による公演がありました。大迫力の平家太鼓の演奏も伴って、地域の方々より大変盛り上がって良かったとのご感想を頂きました。
最後に、今年も多くの企業の皆様からのご協賛を頂きましたことを、厚く御礼申し上げます。

夏祭り実行委員会　田原 暁仁

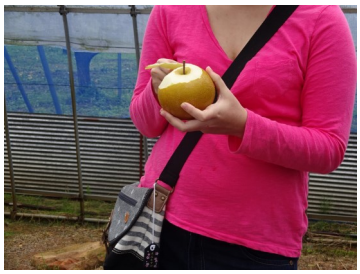
ご協賛頂き
ありがとうございました！

(株) タカラ 様
西日本医療サービス (株) 様
(株) 岩多屋 様
松田清掃 (株) 様
(有) 華企画 様
(株) 大林組 様
キングラン中四国 (株) 様
リコージャパン (株) 様

■梨狩り

9 月の院外活動として、女子病棟は 11 日、男子病棟は 19 日にみのりの丘へ『梨狩り』に行きました。例年より気温が高くハウスの中は暑かったですが、参加された患者様は暑さにも負けず、楽しんで過ごされていました。自分で梨を収穫して、剥いて食べるという入院生活の中ではできない貴重な体験をし、秋の味覚や季節感を味わうことができたのではないかと思います。引き続き、秋を感じていただくこと・楽しむことも目的の一つとして、10 月はコスモス鑑賞を予定しています。

作業療法士　川﨑 里絵



つなげよう！スタッフのわ 連載 第30回 スタッフでつなげる、趣味のはなし。

今回は重度認知症デイケア　ぬくもり　**山田 一雄**　さんです。

私は動物園に行くのが好きです。まず、動物園に入ると園内マップを凝視し、一番効率的にすべての動物を見ることができるルートを決めます。そして必ず一番好きなゾウを最後に見るようなルートにします。動物園の楽しみの半分以上はこのルート決め。オススメ動物園は広島の安佐動物公園、愛媛のとべ動物園、鹿児島の平川動物公園です。今年、徳山動物園のゾウ舎が新しくなったようなので、見に行かなければと思う今日この頃です。（写真のゾウは熊本市動植物園のマリー）

次回は　心理技術科　**増田有亮**　主任です。

編集後記

ようやく残暑が過ぎ、秋らしい涼風が感じられるようになりました。毎年この時期になると、スノーボードが好きな私は雪山が恋しくなります。段々と下がっていく気温に胸を躍らせながら、今年初の降雪と山開きを楽しみに過ごしています！

(広報委員 安川 英慈)